平家物語評判秘傳

巻之三之上

和書門
類 八七
號 八七
函 一八九
架 一一
冊 二四

内閣文庫
和書
類 八七
號 八七
冊 二四
函 一
架

内閣文庫
番號 和 8787
冊數 24 (5)
函號 204 5

国立公文書館
National Archives of Japan

平家物語評判秘傳鈔卷第三之上目録

詩文
足摺
御産卷
名残揃
大塔建立
頼豪
少將都帰
有王嶋下
颶

国立公文書館
National Archives of Japan

平家物語評判秘傳抄巻第三之上

評文

源義二年正月一日の日院御所より祝礼行はるべき
日の日朝覲の行幸をけりもし例よりもまさる
るはのけもてなしもさぞの暮新大納言成親卿
を始の人々多のぐうしかりけるを清盛御
憤いきどをり心ざしとげしはば世の政をとり万りのうく思
ひ給ふ心ありしかねるもしかしてひけり又大政
入道しる多田の義人行綱が告知せ申すに仮
に君をとりたてうしろめたくおもひ奉る上
うち変のさやうのれたる下のの用心しく吉凶

しくきこゆるなり。

評曰。善を見て急ぎ改めるべきこと、此三つの物を守り給ひしかども、猶疑ひ思ふべきか。何ぞ疑ひ給ひしかども、又重盛が憤り思ふべきか。次に第四の改めと物に心を付て居給ひしかども、猶善を見て急ぎ改めるべきこと、やがて善を見て急ぎ改めし時は、善の心を改めず、世の中のことひも思ひ定まらざる故なり。山を獨わけよ等きこゆ。

まして縱へ不仁の人なりとも、天性人善性なりのうれしかるべきなり。何ぞ惜しく者なるべきやうなれども、此時小者をとりつめ、くるんでまもるべきなり。色保者の心なほよく存ぜるべきなれども、憤り思ひてさしもとりつめ者を密存じ、心中にて外に未顯れざる色をも、向の者とも、くまうるべきなり。一夫入わ重盛が法皇の御不德あるべきなり。くまうるべきなり。方寸の位おかしませば、者仁改と守セ給ひしなり。此時こそ

法華経にくるりのとじざるしざるの
金ひしやいうるる敵しのしいうるせと法
わるれしし世くの墨将色とそど却く大
乱の基とつと長どりのし古の聖代と
治世長久うるると悔ふ色ふるる詭擬
のどや能じしのらいしんじくの物じ
やくじ人と求るのなぬ何くく喜人と求しか
住者人をもつ者るとと好ぬ人とどて
三人三ふの法命つ人れじ者をくるる
時ぬ法もほくくるりのるれじ文の時り
法華経くくの意将生ふ者と

悔きるるるぬ人ひの謗類ぬ色法華経
理るるれも法華経者と敬をり。礼義正
しくぬ者上人ぬ申ふ夫下の百民まで
も懈ふ対ぬ者ぬ対るるとい思るせふ
法華経不徳ふ情と格者と悩
きるる上るるナるひとるるにるて
るるとも思る寒せふるるの縦者工徒の話を
といるるも法華経者ふ人者と有る対ぬ古の地
と没く仁徳とやどせどぬいんで絶ふ長久の
睦しるるる命ひしや能ふ墨人のるるぬ巳が解
るるにるるく人の悔くるるとるど却くを

怨恨の人は何く離とうこんと物とて食は苦り
不義は陷こと絶こと三ちと云て色欲世上迷の
人の常のうひし故は為を治家とその国と
治ん事と治る人雷は唯を心を正とうはつて
軍は德とつりて一心と治ある上は縦張山ろ
の類うつし必未代よりことのわそく絶は
太福と待又は分しうがうが三界は日月これと
守うに城郭とうくせどこれを曾聽は義く
敵国服とこと言ふ世の人こと書と編る
りの多くそこを心を知人ぞれしとうえる
論は曾の円は治く敵国服とうるもこと何

を曾聽は治ん敵国服するの
ろ人数とうくしを色とのうぞ城郭とうて
しを色とのうぞ兵一人の曾のうは治くぞる
ろうれぞ色りの京爲何うおしや彼は未
世のうく武将の家よりは又は弓馬の乃は撰
人軍の法と学ちうぞうさるは
心と書ぞ曾聽はうのうるとと学
ぞ人書とん異國の書うちうく或理
とうと言く不作うしと云或人書は理爲天
しく時は意ぞぞいは為く此書の深
要と悟ぞ故は人書とく偽ぞて立法

知るわるつぐるべきぞ。求世の学者よ心を記。
いんぐして胸臆よ治めけるぐや。乃一句
加何ぞ。無道之傳受を
入乃おもの乃世。建礼門院に対ハ未中学とゆえ
也ぶいしぐ御心くやく乃上。天下乃歎を
ぐらいけり諸寺乃法験祈祷社乃宮幣使
とゆられけるの
評曰。主乃古御心まとまを対ハ也を乃
上。天下乃者歎怨る理なるべし。ぶぐこと
を付二り乃ものを。警を対乃者。
王ゆくもとを也ぶいて天下乃万民を者乃法

恵と影乃対ハ上乃憂とぐ世よ下して担る
真実ゆるぐ。行ぐしき乃法悔上下
乃嘆くゆ。徳乃歎して八ゑべくと。
色只対乃威よ怨又ハ利欲乃貪小媚く
外よ乃と怨怨とそぐし心中よ考ぐ。
目ひきやさ咳りのし。ぶ小恩将不者と変
して。上下と苦ゆ乃ものを天乃小ぐひゆる力
乃やゆうけをぐくく。仏力神力と祈
ゆりしいんぐ仏神乃恵もゆるけんや。
されど神乃誓しも心ぐ。
祈ぐくも神や守しと云ハ縦いゆる

げゝりさきをゝうつしもゝ惣悪の家とハ守
りとゝゝ誓おくを不仁不義と変ゝていう
ぐるとの神仏を祈ゝていうゝし更より屋をゝぐゝ
故よ神の門跡より宵ぜゝく次小神仏と
祈おりまを。
傳聞中ゝの御悩ゝていうゝもゝ多ぐ市懐姫
のうゝ必ゝをゝるゝけ生じ平氏の一門ハ申小及ぐ
きゝ忠存ゝの武士又ハ諸国の地頭或諸寺諸社
の住僧神主ゝるゝ市祈禱の札守と捧ゝるゝ
けゝにゝゝゝゝ不の公役ゝゝゝ農商の族
よりとゝゝゝの財宝と書ゝ。門の学頭ゝ厳

島の神ゝとゝゝのゝゝゝを色よゝゝて
世ゝよゝゝゝけり悩ハ為又王子市誕生ゝの
まゝまのゝゝゝ不の公役ゝやゝゝぬゝ。
若ゝゝゝ世の禍のゝりゝゝゝゝ。の王子御
誕生ゝゝゝゝゝゝゝ世ゝの悩ゝて世を
ゝやまゝ為ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ者
ハゝゝけゝ果ゝゝゝ王子市誕生ゝ
ゝけゝゝゝゝ不公役ゝゝゝゝ上下の
ゝの目出ゝゝゝゝゝゝゝ心中ゝ若ゝゝ多ゝて。
終ゝゝ天下ゝゝゝの事ゝたゝゝゝゝ御
新ゝゝゝゝゝ王道の衰ゝゝゝ時ゝ

槻ノ木ノ方ニ実ノ未代ノ色紀氣ニ成ル也。
御懐姫ニ成ル時ハ相国ノ落
ノ子ノ儒者ノ仰ニ大法秘法ト修シ星
宿仏菩薩小付ク皇子御誕生ニ祈誓
ス六月一日小中宮ハ著帯ノ祝ヒ仁和寺
御室守覚法親王ノ参内ス孔雀経ノ法ト
ノ加持ス天台座主覚快法親王寺ノ長
更圓慶法親王ノ護ス
成男子ノ法ト修ス
評曰ク人ノ懐姫トノ天理ト省テ
ノ子ハ七歳ノ時氣

さんにゝ歯ノ生ル髮ノ伸ル十四歳ノ天ノ
陰精ノ水気ト受ル任脈通ル衝ノ脈盛
ル月水始ル小色ノ白ク子
ト胞ノ二十一ノ時骨髄等平ノ歯
生ル二十八歳小ク筋骨カタク
髮ノ黒ク極ル陽明ノ脈表面ニ
ノ三十五歳ノ髮モ白
ノ十二歳ノ三陽ノ脈下ニ
面ノ脈ノ色ノ少シ髮
白ク九十九歳ノ任脈大ニ
天衝ノ脈少ク天ノ陰精書ク地ノ精血ニ

ぞ故小形にして色黒く子なし。男子八歳にして腎氣実し髮のび歯かわる。十六歳にして腎氣盛よって夫の陰精とうけ精気ひつれ陰陽和合ぞ故小子をもうで二十四歳にして腎気等平小筋しっかりとして力強故小子骨髄充実す。三十二歳にして筋骨盛し肌肉滑くしっかりいろ三十歳にして腎気衰髮ちりけ歯ぬけ三十八歳にして陽気上よりして面ぬけかしらげ半白五十六歳にして肝気ちりて筋自由よもつてぞ夫の陰精書くして精弱腎気ちりて形皆極る六十四歳よりして歯ぬけ髮白く老て腎ハ水と可五勝六腑の精とうけて色と表ぞ故小五臓盛して解四一通ぞ。六十四歳にして八五体皆ちりて筋骨よりて夫の陰精書くして行歩心のまゝなりぞ故小男子ハ天の陰陽ぞ子をもうし昂天地の陰陽ぞ程とりて骨くうゝ対ハ人の懐胎皆気血調て陰陽天地和合して五勝平なる

ぞ自然と子を胞ぞ。にて故うくして色と弗仏小祈とりて天地の力程と育て子と生ぞ。なんや小天の造

胎内ハ子の女子と男子小祈出ると云ふ愛
小心待ちて陰気と引とる時ハ女子と胞
陽気と引とる時ハ男子と胞ゞ。待小天の
陰気を受く女子とたゝむりのとゝいんで変
じて男子とゝなると行ゞ。仏説1
変男子と云ふ。色ハ胎内ハ子と
祈く女子と男子にかゝるとゝわるゝ。譬愚鈍の
女人なれども。仏心と悟待る時ハ忽小男子ハ智
し勝ゞ故小変じて男子と成ると云ふ也。
八歳ハ龍女ゞ成仏と遠ゝと云ふ即ち
也仏の所説ハ女身ハ方便多し。故小ゝに此名

と顕して行ハ為ゝ仏ゝと執行ゞ来世濁乱
ハ時ゝ此法と退物ゝ多し。故小
実を求ゝと欲ゞ大悪ハ法と行ゞ。苦難
と通ゝと云ふ。千手観音ハ法と名ゞ
よ。衆人也敬と求ゞ。色塗ハ法と行ゞよし。
説ゞ。或又ハ経と読誦ゝ。ハ功徳
を。此陀羅尼と云ふ。利益
慈悲と好者ゝ。慈悲ハ為して仏行と
慈悲ゝ。慈悲好者ゝ。慈悲ハ為
変寿ゝハ仏行より引入ゝ色。
深ハ方便殊勝と云ふ。世信ハ凡人

八仏心とたづぬる理しらざる故ぞかし。
されども常に仏の御意とたのむ慈悲なり。
利かなるに祈禱する心得ぞ。
正直なる理を聞ば縦悟道愛心の人なりし。
命を祈しかばなるべし。
警凡夫と云者は
愚癡なる者なれば祈禱なりとぞ。
時は唯今死するきはなれば
しかは程なりのしるし故小人の言を助ち
救悪悪しかるべしとぞ。
王位得る人の祈禱必又大なる功徳なり
変ずる故小権化の菩薩也。人の祈とぞ

変ずる故ぞ。人まち仏それし多眼の法師八
故小西理小行ぶるを悟ぬ。悪人
世の凡夫。人心を悟ぬ。悪人
小の仏行を修。
変悪と云よりぞ。
と悟く善償の童寅とりとぞ。
中宮御懐姫の折と仏
怨霊つきたりける
或人問曰。死霊生霊と云事。人とぞ
つくとは如何なる故ぞや。答曰因果の
ことわり必ず報ぬ。問曰因果の

なでや。答曰仏説小三因業と云ふは順現業。順生業。順後業。名し。順生業と云ふは造て作罪今生に生ずれば順生業と云ふ今生の罪を生ずれば順後業と云ふ今生の罪を生ずれば三世の罪とりて三日三時の因果をもつて殺害をもつて人の罪今日しれば今日の罪今日報今日の罪明日報。又は小時を刻を小罪をつくるとやしなう。殺害をもつて人と殺害をもつて時。をりの人死去。和人をけをばをもつて報とをつづきあるべし。小三因果

いづれの人よりも止をもつて人をしんや
答曰。三因果をもつて殺害をもつて者
の心中小なる。譬梅の實のごとし。三實の因
小花実をもつてもつてもつて縁
まるごとく付ばかりなれども喩世をもつて
盗人と又なる。果をもつて罪と作とをもつて
いつれども又西をもつて罪を作る。果の罪と顕
をもつて多し。又をもつて生をもつて終よ
魚鳥と食ずしんのあるよりまよ名と
食をもつてもつて又味と好思ばかり。
盗をもつて盗心の四をもつて心中

小さけり時は必ず心とりくゝ又さ変と分て
故小一切の因果は唯人の心よりつくりてゞ
正躰よりそゝくく彼は悔実の縁と待ゞゝ
故に古人曰人の心わやくゝ乃心微しも
云ふ。問日因果を多と雖ども云いゝ。今此
中宮よりつくりたる悪業は法皇と又人乃相
国よりつくり奉りし中宮小付たるゝ
如何。答曰それ因果乃攻まるゝ乃一
わゝゞ。業は必弱うと便しゝて。乃中宮乃
御悩争へ乃苦しゝ乃ゞりんや。れ
しゝ弥よゝたゝの苦小為況づくるゝ乃

ゞゝれどしりや悪人因果歴然乃乃理を
るとちゝゞ。ち報乃まゝるゝ乃まゝ時は
ち他罪はわゝれどと思つる。故小又重ち
悪るゝとおして終よち報と受くゝぐく
わゝだり小ゝづゝるゝ。ゝけりゝさ変ゝあゞ
や故小末代乃人々乃理と弓見して天
乃と守因果とちゝ為ゝ
門閥乃宰相屋中宮乃は悩小付くゝ鬼男為乃
為人の生業新大納言の死業なので申ゝと中
為ひゝく。小松殿よりゝれけりさゞ。重盛父禅
門よゝ時変りゝ世為ひけりさば鬼男が為乃流

人呂人まれけりし。後寛信僧都とハ教兒のこと
ける事

評曰。それ善根とうまるハ夢幻ごとくなり
ハ善とりくくしとて。さきハ仏法
ゑ遍ハ善ゑ遍ハ善と云ふ尼禅門
の影ゑ一枝ハ花とさくげ一種ハ実と
焼しかど夢ハ昔の面生小利益もなしと
わとも形よこハ非業ハ教ハ一夫ハ善ゑ
はゆゑさきとさくく。ゆゑの武将大政大臣
人の一給ふるうちに。後寛一人とゆるされ
ばゆゑ付ばゆゑ見ゑ。ハ心ゆゑとなり。形業

ハ教ゑ。ハ人ハ善ゑ。ハ人ハ善ゑ。ハ人ハ善ゑ。ハ人ハ善ゑ。
ハ人ハ善

教えて。後小龍とゆうとたとこうふ時分
龍の釜さと免して。殺しる程ぬ
命けを。故小未世に色とりちらんと願せば
まづを時代の政の善悪を動んく。能を
政とうふ。あく。悪人とのの。次小悪者の
教をし行ば。政の。とうと。とはく
悪人とのと時分。いうる善根しもまちと
天神地祇し納受おりまとる。喩今日
百人の刑人とゆうしとしとの政
ちと時父分。入る刑人。ゆえ。葉
刑人の多さる。色ふ上の政とうと。

故小大善ふりしつさ小善よかりうれ
ふ程よる時分の悪者の教。面義よわ
さと。悪ふく
足摺
御免の使基康。後覚小評状と成る
悪し。後覚傷。故。ちと多教免。ちと将
の被小ちと。父大納言殿の。ちと孫
叛故よ。ちに。ぬ。
降ふ。ど。ど。数しる。ちと多人
小越く。平氏の重恩と。ちと。逆心
と企けるちと龍人小ちと。ちと上

使の見さうんぜらるるを恐て。忠心と失ふるの人
詞と出るの惡しき。人を毀謗し給ひ
後覺ゞ申さるるを好ゝでさよわるゝど。人使
知よ為ゝ為の人次第とと云し時。人俊乗
の嘆し変のるを小申さ。却て
自分の憐と受る。ゆゝの惡者と語
給ふるゝと沙汰ゝ法皇の御厚多し。
後覺俊乗。人ゝ自害とのさ可うんう。
しし悪き越無と起。戦ひし。越の軍員ゝ
罪の為よるとゝ。越王患の人の縁に随て
死と煙ゝ。命と盆しゝ。石侍と掌多ひ

て終ふてゝとひるゞつとゝ人ゞの大功と存
時。後覺も命と盆しゝ可うゝ。されゝ
人を殺るの。参詣の命なゞゝ。未代
の辱とのゝるゝ。口惜し。後覺が詞。
多き変しゝ。毀梁傳曰。人の人る所の者
ハ言し。人ゝ言ゝ。人ゝ為ゝ。何とゝて
人と曰んと云云。毎小言行謹ゞんばるゞ

御産巻

さ原程小中宮ゞけるゝにまゝ。御産
平安ゝ。ゞ小人て。ゝ人ゝ後覺。大小之
神主等。家ゝの秘法を修ゝ。ける如小。法皇し

錦帳とく市庭をとく千手経とうちわげく
あそばされけるゝ
評曰。抑日本は天照大神と地神五代の聖王
うぐやふきあはせの名ぢの光るまでく聖德とりて天
下と保ふるゝ曆代の神記しうけられ
しるとつまり人王の始神武天皇と竹葉同先
聖の制誡ふるく世を治ふるをとり給ふ
代々の帝王何し為の仁勇の三德と旨う。
表して三種の神器しとをしるして天王
君小命ぢ。天下又ちなと貴。色王道の法
霧〻。異神と崇〻。ふる大廣の礼義ふしる。

言後異霊の異と崇〻ふ人王五代春昭二千五年
小紀伊国ふ熊野権現と崇奉〻ふ。
未先例とうしるのぢくやなけれ。紀小人王三十
代欽明天皇の時字小来国ふ仏法
しるふく神祇自裏疫ふ二十万の疫癘悪
怪虚と貴しふ〻ふ多ふ〻ふ〻ふ〻ふと
も皆出家沙門の執ふ〻ふ多ふ色ふ変ふ事
忌づふ〻ふ多ふ中ふ。仏更ふ中害御産の
時ふ〻ふ〻ふ仏皇千手経と自あらばされ
大秘呪の真言ふ〻ふ御加持ふ〻ふ王法の
あさふ〻ふ色天下の平道ふ時小絶ふ

家の世を治めさるの志ある雲客殿上
ぞうのまぶり給ひんや。ことごとく仏法と謗
じ給ふ。いうとく仏法を弘めるのやうと知ど
如来の心を学ぶ。経文行迹よりも付ハ梁の
武帝の仏法を尊ぶ。ことごとく是未
代の悪義にして。初学者のうるむ所にそれで
中宮御誕生の時。小生の大臣蓮の矢
と射給ふ時。其心よい天照大神入り給ひ
給へ。天地に方と附給ふ。心ある人の工言
とりうくを。とかるべし。小大相国入道等の
或いはうくうくうくうくと或喜ぶ

ふを評ずるに。ずいぶんと喜ぶ時ハ嘆ず。行
で喜嘆と申つるやう。乃皇子生給ひ給
実のうるげさとおもはれ給ひ給ふ。
くのごくの時よ。ほめ給ふとりて初ず。
ふ第一よの天。第二よの時の聖人。第三よは
賢人。第四に小時の人。人しうべし。夜小古今
の良将賢者と用く勝負の策と偽やまて
れが謀よりく兵と用終敵と亡しうえ
幼御抜
平大ごん時忠の小乃御乳よまのうれけり時
法皇還御き門前よ事とそれし変

評曰。乃ち申ハ法皇を奉て御車に乗れど遠御をとゞめ給ふ。乃ち車と寄られしかども八女姓なれば御ゝ乃を抱よ又ぐゝど色法皇の行迹ぐゝしゝざるにゝゝ自ら威と失ふ。ゝ伝曾乃者固申ぐゝる。色皇子の誕生つゝ喜をゝゝゝ貴をべき事と失。王法と貴小仰ゝゝゝゝ部ゝ王威乃ゝゝゝゝ

うう方便ゑえべし。先仏法とさうらふ小信じて。
次ぎに神と用ひ。ものに行ひて初めの方のもの
ものに多くよりて。凡仏の方便とりて
大意と悟る。清盛同日。りうりう仏の方
便。覚鑁日。西方十万億土小仏の所と説
くゑゑと云。色方便也。法華経に曰。如来
秘密神通之力。諸法之要。悉皆通達。
とゑゑと云く人と惑
と。色偽りて思ふ。よわうどや。覚鑁
云。愚癡暗鈍の凡夫。己が仏と示して
ふゑゑ。ゑゑく信ぜべし。ないしぞなよあ方の
大とゑゑ。外よゑゑ。して西方と念ず

しむ。愚鈍の衆生。心とゑゑと色と念ずる時
心即仏。色即西方。ゑゑ心即仏。色即西方を
導方便ふうどや悟の。おしあ方の。迷の
あ小西方ゑゑ。理よりゑゑ見時。仏の方便
八金偽ふうど。故小乗の方を。仏の大道を
四ゑ。諸ゑの方便とりゑゑ武威とたとけよ
とゑ。時小法ゑゑ術とつゑゑとゑ。故よ
大塔建立いとゑゑ。ゑゑ理よりて悟る。

頼豪

白河院の御后。皇子。中宮の御腹。小皇子。
ごうごうと嘆。思ゑゑ。ゑゑ三井寺に有。頼の修

ここに頼豪阿闍梨とて仰せけるは、海内の石の
けんに皇子誕生を祈り奉せよ願成就せば所望
ハ乞に依るべしと仰せけるに頼豪仰て義
に所詮とぞ申けるいのり奉りけれども皇子御誕生
ましくけるふしぎに白河院頼豪とて申ける海内
所々ハいかに仰られけるハ三井寺小戒壇建立の由
奏聞せ白河院さうもなき若子所望と叶
ぬ御憤く世しし静うべし皇子誕生を
祈し海内奏事と思ふ故しとく終ぬ所望
さて終ぬよろこに頼豪大さに怒これて
ふ食とて死して終彼皇子

評曰皇子誕生まさまさで所望ハ乞しようべ
しと乃宣旨まで所望ハ乞しようべいうるの所望
とやのとて申さ所ふしく宣旨ハ乞を慮れ
りまさく御ふ故ふ所望ハ乞ものの。
皇子誕生と祈し海内と奏聞小男子故しと
なりもてらく変。御小海内と申に男子ハ世
乃政と所望ハ乞。德ほうのと所望職
を任ぜるハ。海内自ハ所望して必皇
子しまのとて。御ものなくしてでも
しく誕生まさ也ばしく如何で海内奏

事の次第やうよりは頼豪の為と一世の利欲と
のぞまれうらふもいうぶんと戒壇建立のあるもの
惜しみなし帝よりも山門の支度と書
さるべき宮下りの時は一夫の聖主の宮下かい
何ぞ高よ者でんや縦頼豪の為と雖
ばうらるべきを程ふるとも一夫の君の意
言と宮ゝよりの時は是未代の誤と云
又天下の人の心待也ものとうく思べし
さるべき古人曰天子ふしさりれの言葉うく綸
言汗のごとしと云ふ為小後世の君臣
の模範ふまるべきの為と作

也ゝ支ゝれ又頼豪阿闍梨也仏の御
意と云ふ人也いうんとうれど佛は遠の
存生として生死の苦界をいでさしめ給
出仕生の為よ入給つきぶ為の誓
願と部ゝ存生の形ととゝんとゝたひ
かりまる或五百の大ぐんと部ゝ給ひ給
宗家ゝの功績さるべきと說置給へ
是なる魚とゝう魚き釜の如し給るよ
未世の人を釜と乃ゝうとおるのひ苦て奥
とゝゝゝ仏法とゝりく人の病をいのる
子と祈ゝる是釜ゆ仏の乃ふいゝしべき

為とて小頼豪帝王のとうと満ぬべきものとぞ憤ごとに思ひ給へしかども
なほ人の怨敵とぞ給へいうんで
色まさりの仏法と知人とぞ申さで
小業外道にらしぶ小頼豪ども乃
官位財禄とおもひ給ふ戒壇建立乃ことは殊勝と
云ながらいりのしうぐゆよう乃法験豪乃心中ふ
ようて又仏法守護乃心得しらぬ者乃故
小智見とりくくら乃評とぞ侍
少将都還
正月下旬に丹波乃少将経平判官康頼入道
二人乃人ぐ能前国鹿ヶ庄と云ふ所へぞ流しける
れぬ流罪しぬ流罪しぬ海上も
いくらのれけるに浦づたひ島づたひして二月十日
比に俊寛乃児源に着給ぬれども文太郎言
成乃ことちとまるけるに木乃別おとうやり
見乃ぬ見給ふ程ぞ力なくとして乃強ひける
とぞらんじける歎悲給ふ事ハ康頼入道と
二人墓乃ぐと行ひ給ふ
壇とつき新小屋と作
経書くく結ぶ夫乃ぐ七日七夜乃怠仏申
捲とうひ給ふ

評曰。孝経孝の志かりしまして人しいうるん
ものなりとも妻子とせてをうるさ為
よりなれ二ちびあるへゆしん時に死しる親
の墓所小田うでと送仏借書といとなる
てなるとと情つきまれぬべし所時も志
なるべしくるつきもしあるべきハ男ふ
なるさ十日よ及ものでひるりきを父の墓ふ
よりをとてまけるを。御ふ初く切なる
人しまるまでこの志ふ志かりしまもなる。他
少しも自ずと此人といしまを夫道と
恵と施し給ふよりまを心の外よりく

也敬治とでゆりてまを好ふりのしあふ人と
しているで孝行とおりとをしまれば孝
と云りのうのしど金銀衣食しまをのを物よ
りでしまで志の信実とりくるのべし
ずよ志世の人。多知奥られば孝行と書る
るりでと云人世よ多しを待でさ金銀と
りとりく孝行とせんと思ふ人ハ富士山を
削よりてんでふの海とまてんとおりしで
でしぬでさるりと孝行とのこせんとおりひくるぬるる
孝行とのこせんとおりひくるぬるる
ふと云ふあるにおりびでさるりとをる

ふわうぞいうしゆ先行安くく己が分と心
とりくくのくと書べし警を身忍友
ふたくしくさハ親心少を とくくしいあて
とのて時ハ親を と制もち職と怠きハ
親を と怒子癇と生る時ハ父母を とのハ
敬小己が分と云て時ハ親を とくくぶ
親くの金銀衣食とわくくとおくしを親
の心と使くくしんがあくゆくふ孝
と行の本意ハ敬の心をくくめ
て父母の勤をんくるとくくと命ハ
敬しの先己が分とくくのもくと先ら

次小金銀衣食ハ待くよ隆くわ面ぬ
もくを云くくとくくとくくと時ハまと
至ハくくしふよくくもくくく恵孝行のぞ
と云くくの敬小末世の人ハ人の心と
ぐくく孝学の為と辛と為人
を程小鬼界ぐくまの法人ぐと二人ハ
人きをく敬へくくと人ハ
人のくくふくくうくくく俗の嶋守ぐの
てっぞの人命のきえやくおくけくくく
くくけ色家よ俗敬の雅くくと不使よ

しく百りの孔けり童小ぷる丑と云りのる鬼界が
島の流人どしぷるる既に旅へ入とぞ聞へしるる丑ぷる
羽を行ひ命いとけ幾ばくし我主ハ入道殿ぷりの小
くうへ入ばるれい扶罷ぬ入ぬ小ぬ人ぬ小ぬましぬ
ぬぬぬぬぬぬ心ぬぬぬぬ悪し常ハ六ぬぬぬよ
ぬぬぬぬぬぬぬぬけぬ赦免をぬぬぬし
ぬぬぬぬ娘ハ恋ぬぬぬける
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
しぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

忠義し守りて安うしてゐる。人の道ゐ忠義世の
ためき主と痛りてうるはしうしてゐる。輪いうしてゐる鬼畜
ゐ行ふ事ゐ行ふ。ま君とうしい奉りてゐる。樣
少きき忠義ゐ小わるくしてゐる。つくづくいうる世の
人。さうの世の物ぢうしてゐる。人の福と行
ふうるとをきくいふうびいうしてゐる。
りうるものゐ行ふ。月出愛
とする人まれし。唐うでよい。かうる者とバ
世うしいうるうる。宮と賜るわれぢ。
のしうのうの少ゐ。うなふ古うる。
学の賢徳孝子。忠臣。真女のどいうるゐ

いづれの文しのせうれざうる。是又うびぢ
きうるうるゐ。おりれいうる代ふかうる
とうれ。きうれ。きうる文とうるうれうれ。
和朝ゐ代ゐ海の中國とうる。美のたをき
く。聖徳さうしよとうるうる。功徳えべし。
居うる。史記うぢ。うる文うる。ゐうれうる國
ふうと。是と也し。たのたうりよめる
あれぢ。是しうる世の鏡うえべし。されバうる
王。治るうるうるうる。出家のたの仕。後世とうい
まうせりうる。ゐうく信実しとうぢし。中
しうるぢ。初者者ゐのたのよいぢうる

祈ふりいのさうゆめ。後世小後寛僧都。
しのさ変よ心とう。ひ絶小一生と元
ゝうしけり。色りうう因果や設所
ゝの因果ゝしは。一念ゝる始と。悪行
なのもゝしゝいきし。ゝ所いるゝ行未因
出産ゝ。ゝ。ゝ。

評曰人道ニ対シ暑時ニ風雨
万物ヲ害ス云々実ヤ人世ノ政ヲ見
ル上下悉礼法ヲ乱リ災害ヲ生ス謂
ツベキ時ハ世ノ衰ヘ来ル程ヲ
しるべし古聖人ノ御代ニハ五日一
雨十日一風ニシテ小一分ノ物ヲ
そこなわず自然ノ徳ヲ満
足シ生長ス故ニ政ノ正
しく人ノ節義ハ天地ノ節ニ
ツレル人トヤハ八方ノ風
悉ク利害ヲ云ル也

ヲ生ズ不ハ五風トハ五風
ハ春時ノ風ハ東方ノ風ハ春ヨリ生ズ病ハ
肝ノ臓ヨリ発ス南方ノ風ハ夏ヨリ生ズ病ハ心ノ
臓ヨリ発ス西方ノ風ハ秋ヨリ生ズ病肺臓
ヨリ発ス北方ノ風ハ冬ヨリ生ズ病腎臓ヨ
リ発ス中央ハ土ノ風ニシテ病脾臓ヨリ発ス
人七情ニ感ズレバ内ニ生ズ時ハ気血順
流スルガ故ニ世ノ風ト和シ気ト和シ
ノ如ク人ノ心ニ行ハレ行ハレ妄
ニシテ時ハ或食物ノ為ニ脾胃ヲ害シ怒ル
ベキ人ニ成テ肝ヲ損シ喜ベキ人ニ成テ

肺と換じ。五臓自虚弱して氣血不順なれば外邪をうけて侵し風炎とのぞ
かるべし。是を男の政とする。女の時なるべし。世上の人の成
ぬる是人全くして人の成ぬる人の成ぬる
天下小大凡大雨旱魃の盈虚の時しれば天
地の理。陰陽の虚虚の時は凡あるべく
なるべしとのべたる

人と害をうけるは盈虚と
しく天地久しく地久則人久
久人久
惰怠の時は
安よりは危の時は
怠の
人は倍
孝
危
長く寿
動へ

ふるくしてかぐろ湯ぶくもつも皆白くなる
橋と長じて時うれたれどいんぐを終のうぐれ
さるべけんやうれどこの時王法ほろびつつ
武家を威と侍くに天下と恣にするのけ
とうのうちうぐわのうちに堆ま
くもの下の摂政関白一人よ
まぐうの宮位をうるとして万度堆くぬのうち
故に一切の人上ふ通じぐう故に世の政
るのゆうぐく世上りぬ王法とうう上
と狂じ背のうく所をよ勅敬ありるる
きれぐを乱と制ぐんぐ為に恩と尊し位と

し武家とつはうきこの故に武家威光と
くくうるる又を切と貴ぐくもくはる或は太閤
関白等の官位よ弱世ぐうのうちと弱よ
又彼武家のうくうの修長ぐく
古の帝王のごとく堆しく一切の度上よ
遠ぐうるる。然ば必又りうぐるる時世
とぬぐし故に未世の武将この万をうく
まくるるこうう伝く修ぐうのうれ況又
ぐ下うくく藩とくぐやうくぐ
刎うるる人よりくとやうげうく
るる者の礼法神の絶畏くくる一切の作

ぼうるおわさとうしゅうを代ハ小笠原流ぐ
ゑうるとりゝ世ハ礼をまもるゝとゝ日むハ
正礼と失ふゝ人行儀ゝとゝゝゝゝ
失ゝゝゝ多し。ゝのあ九とゝぐゝゝゝ小。
ゝゝゝとあゝゝゝゝゝ延喜天暦
ハ中ゝまぐゝハ。いゝゝぐゝゝゝ小ハゝゝゝ物
と。ゝゝ定ゝゝ又ゝの流と立ゝゝと拵ゝゝゝ
ゝぐゝ礼と立ゝのゝゝあゝとゝゝどゝゝぐ
ゝの形とゝゝゝゝゝゝ倣ゝゝにゝゝを
まゝくゝの流ゝゝゝゝ却て礼とゝぐゝゝゝ
多し。ゝぐ世ゝ主ゝゝ右ゝ礼ゝゝゝ初ゝぐ

ゝゝゝ小ゝゝゝ倣ゝゝゝゝ礼ゝ
ゝゝゝゝ儒ゝゝゝゝゝゝゝ礼ゝゝ
礼ハ天理ゝ節文ゝゝゝゝ婆ゝゝ時ハ。
人ゝ婆ゝゝゝ小ゝゝゝゝ天下ゝ
ゝゝ時ハ人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ。ゝゝゝゝ重ハゝゝゝゝゝ書ハゝゝの
ゝゝゝゝゝゝゝ小赤面の人。夷ハ諸東
君周食趙覓とゝ
ゝゝ明ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ幼
とゝ色ゝゝゝ富ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

さればこそ人のくとのれ一人心のさと行ひ
くうるうるの者と長ぶ。故小右人日
橋りの人しうしぶ書の先亡と云ふ。
いうるりの他人の橋おくうりいうと
ぶる人ぶるぶしぶ。我身の上と
色よとくくと云ふと兵人の身の上
しとうくるとつと譬言ふ為ふとなりけう人も
ぶりくとふとバうう男の人くくうくと
うふふうしぶるもしありい。彼変ハ今
日むうくりうつがあよ。度ふにのと心と
ゆうして思くに為ふるさふ。月そよ橋

長ぶくに既ぶ月ぶに思くいふふ
ふと形くくぶ今日の後といふぶつしまぶ。
既年七月うくく此くのこし遠彼形も湯ぶる
小ふくく後よ変とつくしくうくくと
ぶぶし。完早の付よ糸出くふる船の樽機
梶ふさぶくくうとぶ。ものふふる為さたふふ
と失心ふのとうれ出くく方星の海上して没
ふるぶくく絶ふくふと義況。色実小右今
人の誤ふよくどや。故よ人くくい。礼と為
くくくふと為ふと時ハ心あやまちふぶくぶ。
まくくや一天の者ふ人。礼法ふかぶ付

少天下より怪異まことの心なふ占必
為ふ友より時の陰陽家ども天下の恐
るる由さうし占より奏聞ありとぞ
上より是とつしこれ行ぞ
ふ人に異ふ乃えてそれ者の八占と用
ぞとつぐし世より不思議ふさハ少こそ善
悪と知ふ人ふ是保こそ改の善悪とりく
ふ時ハ天下の始終ハ掌とさしてぐし
良将ハこそ佳とりく事と知ふれとい
わ人ふとうと知りの初ふ人ぐく
ふ人ぐんぐひしんで敵陣とふ初ぐし

や知ふ人ふ未世の人こそ初徳とりしふと知
ぐ彼法此法しいう軍の人と者ふ兵ふと
こそふ人ぐうとふ人ぐ悪ふ云ふ者ふ
ぐ人ぐ武ふりの人ふ馬の家小ふ人ふ費
てふふ人ふこそ時ふ人ふ者ふ又一
向ふふ人ふ人ふ人

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan